

四万十町の
自慢のお肉！

「四万十ポーク」 ロゴデザインを大募集！



応募を待ってるよ！

高知県内有数の畜産の町である四万十町で、各農家が
こだわりを持って育てられた「四万十ポーク」のロゴ
デザインを募集します。

四万十ポークとは

緑豊かな高南台地を流れる四万十川
流域の澄んだ空気の下で育てられた豚で、
仕上期に米を加えることで柔らかな肉質
と良質な脂肪、また他の豚にはない
甘みの強さが特徴です。



各賞はこちら！



- ☆最優秀賞1名（デザイン料10万円を贈呈）
 - ☆各農場賞4名（四万十ポーク1万円分を贈呈）
- ※四万十ポークブランド推進協議会により審査

◎締め切り

応募締め切り 11月10日(火)

結果発表 11月29日(日)

詳細・応募要領はこちら！

詳細 URL (JA 高知県ホームページ内)

<https://ja-kochi.or.jp/informations/info/10749/>

お問合せ先

四万十ポークブランド推進協議会事務局
(JA 高知県四万十営農経済センター内)

四万十町榊山町586-2

☎0880-22-5179



東津野支所管内より



農業は毎日勉強やね

みょうしん まさかず
明神 正和さん (68)
くみえ
久美恵さん (63)

津野町北川でハウスミョウガ15アールを栽培する明神さんご夫妻。今年でミョウガ栽培暦21年になるそうです。

正和さんは農業が大好きで常に探求心を持って日々の農作業を楽しんでおり、これからもチャレンジしてみたいことがたくさんあるそうです。笑顔の絶えないご夫婦2人、これからも応援してます！

運動が元気の素！

よしおか ふくみ
吉岡 福美さん (94)

大野見横野々にお住いの吉岡さんは、大正15年生まれの94歳です。福美さんの毎日の日課は日記を付けることで、農協で購入してくれた3年日記をなんと36年もの間付けているそうです。また、6年位まえからノルディックウォーキングを始められご自宅の近くを歩いているそうです。月2回の元気塾では、健康体操で体を動かし、食事会では地域の仲間と交流しながらお忙しい日々を送られているそうです。まだまだお元気で大いに楽しんでくださいな。

大野見支所管内より



高西
地区

から こんにちは
今月の○○ 気になる人

四万十支所管内より



野菜作りは面白いです

がつば まさかず
甲把 昌和さん (33)

就農4年目となる甲把さんは、四万十町でピーマン16アール、水稻150アールを栽培しています。今年は新たにニラの栽培にも挑戦されており、忙しい中もうすぐ収穫の田んぼで撮影させていただきました。趣味の家庭菜園でもいろいろな野菜を作っているそうで、「作物ごとの生長を見るのが楽しい」と話されていました。

米ナス栽培 まだまだこれから

たけだ ふみお
武田 文夫さん (70)

梶原町下西の川で米ナス600本を栽培する武田さん。今年で米ナス栽培を始めて13年目になります。他にも家庭菜園で様々な野菜を栽培していますが、今年は猛暑続きで野菜も人も夏バテ気味です。これから栽培後半にかけてが勝負！「最後まで丹精込めて出荷していきたい」と話してくれました。

梶原支所管内より



5 四万十地域

早稲品種の受け入れ開始



搬入のトラックが途切れません

8月下旬から9月上旬にかけて、四万十町東大奈路のカントリーエレベーターで早稲品種の受け入れが行われ、たくさんのお米を積んだトラックの列が連日続きました。あきたこまちやミルキークイーンのほか、飼料米を合わせ約146tの搬入がありました。またカントリーでは、9月19日～10月11日でヒノヒカリやにこまるの受け入れが行われました。今年は梅雨が長引きましたが、品質は例年並みの出来となり美味しいお米ができていますのでぜひ「賞味ください」

6 津野山地域

出荷場の質向上に向けて



点検項目をチェックします

8月27日、津野山営農経済センター出荷場では場内のGAP（環境点検）を実施しました。県農業振興センターの担当者らが、場内をくまなく確認し出荷物が適正に保管・管理されているかを確認しました。また共撰作業の点検も行い、作業員の方々と作業の流れを確認し異物混入などのリスク回避に向けた協議を行いました。センターは「安心・安全」な農産物の出荷に力を入れており、出荷物における事故の発生を抑えています。今後も最善の注意を払っていきたく考えています。

3 四万十地域

共済推進で特別表彰を受賞



今後も普及活動に取り組んでいきます

8月7日、令和元年度の共済事業優績組合表彰が行われ、高西地区が特別表彰、興津支所が支所表彰を受賞しました。これは各地域で共済普及に向け積極的に活動し、契約保全に取り組んだことや推進目標の達成などが総合的に評価されたものです。四万十支所で行われた表彰式では共済連の芝本部長より、池地常務と河野支所長へ表彰状が送られました。今年度も組合員・利用者の皆様へ安心を届ける活動を行っていきます。

4 津野山地域

甘とう現地検討会を開催



高温対策の灌水管理を説明

8月21日、津野山土佐甘とう部会は今年度2回目の現地検討会を開催し、16名の部会員が参加しました。今年は長期間に及ぶ梅雨の日照不足や過湿などの影響で序盤の出荷量が少なく推移しました。8月以降は一転して好天が続き、高温による尻腐果の対策に迫りましたが、着果数も増え出荷量は回復傾向にあります。現地視察では整枝誘引の管理や灌水方法など栽培後半の管理を主体に意見交換を行いました。これから後半戦にかけて病害虫対策を徹底し前年を上回る勢いで生産出荷に力を注いでいきます。

Monthly Topics

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



県下では様々な対策がとられています

1 四万十地域

鳥獣害被害への対策を学ぶ

9月1日、県立窪川高等学校で高知県中山間振興・交通部鳥獣対策課による鳥獣害対策出前授業が行われ、同高校地域リーダー養成コースの2年生6名が高知県の鳥獣害について講義を受けました。県内の野生鳥獣による農林業被害は近年減少傾向にあるものの、2019年度には1億1708万円の被害額が出ており、シカとイノシシによるものが67%を占め、サルやカラス等と続きます。シカの食害は土砂流出など森林破壊につながることがあります。つながらずともあり、深刻な問題となっています。県下では猟友会員の高齢化や担い手の減少も課題となっており、ジビエの普及など鳥獣の捕獲・狩猟・有効活用についても防護と合わせて取り組んでいます。講師の上田康博氏は、野菜くずの放棄をしないことや、設置した防護柵の維持管理の重要性を説明し、「被害状況を確認し、防護柵の効果的な設置や管理を地域全体で行うことが大切」と呼び掛けました。



表彰を受ける井上さん（左から2番目）

2 津野山地域

井上高德営農指導員、研究体験発表で全国大会出場へ

津野山営農経済センター経済課の井上高德さんは、高知県営農指導員会が7月に開催した「人二研究体験発表会で最優秀賞を受賞し県代表に選出され、8月25日に開催された四国大会においても、見事最優秀賞を受賞し四国NO.1に輝きました。井上さんは、「目指せ！販売金額1億円『土佐甘とう』が導く山間地の未来」と題して、農家の減少や高齢化など、津野山地域の現状と課題を的確に捉えた発表を行いました。土佐甘とうを主軸に行政等と連携し、地域内環境に対応した農業経営の提案と、農家の未来を支える「技術」と「仕組み」の構築に取り組み、その熱意が大きく評価されました。「土佐甘とう販売金額1億円突破」を目標に、山間地に寄り添うJAの必要性を幅広く発信し、大きな希望を与えてくれました。来年2月に行われる全国大会ではさらなる活躍が期待されます。支えてくれる多くの仲間や生産者とともに目標達成に向け大きく飛躍されるよう応援しています！

四万十地域より

四万十管内「ゆず」生産者募集！ 説明会を開催します

ゆずは高知県が出荷量全国1位の品目であり需要も安定しています。収穫作業に人手を要しますが、栽培管理の労力が比較的かからない品目として普及しており、四万十営農経済センター管内の「ゆず研究会」でも、加工用出荷をメインに65名の生産者が生産に取り組んでいます。

管内では3月下旬から4月初旬が定植適期で、それに向けての土づくりを年明けから行います。

また、苗木の予約注文を年内に取りまとめることから、新規栽培希望者を対象に説明会を下記のとおり行います。



栽培希望者 説明会

日 時 令和2年 10月30日（金） 午後1時30分～

場 所 JA高知県 四万十営農経済センター 2階 説明会終了後ゆず園地視察
※参加をご希望の方は、**10月26日（月）までに事前の申し込み**をお願いします。

申込・問合せ 四万十営農経済センター 営農指導課 ☎22-5179 島岡

四万十地域で サトイモ栽培はじめませんか？

こんな方にお勧めです！

- ・ 水稲や生姜以外の露地品目の栽培をお考えの方
- ・ 冬場の収入源が欲しい方
- ・ 露地品目で規模拡大をお考えの方 等



【栽培スケジュール】

●：種まき ー：生育 ■：収穫

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	土づくり	畝たて マルチング	● 定植	芽出し 芽かき	灌水 開始	灌水 病害虫防除			■ 収穫 開始		

【10aあたりの精算収支】

収量	kg単価	売上	経費（50%）	精算額（所得率 50%）
2,000kg	200円	400,000円	200,000円	200,000円

◎2019年産よりサトイモ部会では、畝たてマルチングを行う成形機と定植作業を行う移植機を導入しました。栽培を始める際には是非ご利用ください。

◎新規作付者を対象に、毎年1月に栽培講習会を開催しています。開催日程は12月にお知らせする予定となっていますので、興味がある方は是非ご参加ください。

お問合せ 四万十営農経済センター 営農指導課 ☎ 0880-22-5179



津野山地域より

今秋が肝心！ 来年の稲づくりに向けて



生産性の維持向上のために土づくりを必ず実施しましょう

近年の水稲栽培においては冷夏や長雨、歴史的な猛暑などに悩まされることが多くなっています。これらの異常気象により稲体の活力が低下し品質や食味の低下に繋がっています。厳しい条件下で生産性を維持するためには、土壌ケイ酸分の確保、腐植率の向上、適正PHの維持に努める必要があります。特に土壌改良資材の活用は稲刈り後の年内のうちに施用することが求められます。

◆ケイ酸の必要性

ケイ酸は水稲の耐病性、倒伏防止の大きな効果があり稔実歩合を高めます。近年、このケイ酸が補足している圃場が多く見受けられます。ケイ酸含有量の少ない土壌ではケイ酸肥料を施用しましょう。

◆腐植の向上

腐植は作土層の物理的な改善と土壌中の微生物活性を高めます。稲わらや堆肥等の有機物を田植え前よりも早い時期（稲刈り後～年末）に施用し土壌に馴染ませることが効果的です。

◆適正PHの維持

水稲栽培において適正とされるPH6（弱酸性）を目標に石灰質肥料を施用する。

STOP稲わらの放置！

水田に残った稲わらは放置せず、しっかりすき込みましょう。稲刈り後年内に処理することで次作の堆肥として有効に活用することができます。また稲わらのすき込みと同時に土壌改良資材を施用することで、ワラ及び稲株の分解、腐熟を促進し有機物や微量元素の補給を心がけましょう。

※稲わらの放置は次作のガス害を引き起こし、生育不良の原因となります。

【稲刈り以降～元肥までに施用できる資材】

資材名	施用量	施用時期	備考
根友G	20～40kg	稲刈り後早めに	微生物土壌改良剤、稲わらすき込み時に施用
鉄強化美土里	60kg	稲刈り後早めに	地味向上に向けたケイ酸・鉄分の補給
ケイカル	120～200kg	稲刈り後～元肥期	ケイ酸の補給
ミネラル宝素	60～100kg	稲刈り後～元肥期	ケイ酸を主体に微量元素を含む資材

※稲刈り後、土壌分析による土壌診断を希望される方はJA営農経済センターへ土を持参してください。約1か月で診断結果を報告いたします。

連絡先：津野山営農経済センター 経済課 ☎ 0889-62-2335

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

俳句

霧の里句会

青柚子二つ誰がくれしか裏木戸に
草茂る老人一人暮らす庭

武政 礼子

塀へだつ母屋と分家百合の花
ひぐらしや隣の厨ことごと

市川 和美

鉢間に日々お目見えの縞とかげ
ずさんさも老の愛敬昼寝さめ

今橋 孝子

コロナ禍に行き場失ひ盆休み
蟬しぐれテレビ音量少し上げ

田中 信子

小寺池水満満と紅の蓮
朝朝の吾の目覚ましや蟬時雨

竹内 春猪

ペダル漕ぎ遠き思ひ出いわし雲
百年の棚田に映ゆる曼殊沙華

西宮 正衛

風鈴や古民家カフェの風得たり
葉を巻きて俯く小草喜雨を待つ

長谷部 延子

短歌

窪川短歌教室

軍囊に毛布一枚つめこんでしらみと共に兄は帰りに

岩井 房子

脈絡もなく思ひ出す夕への夢にゆたゆた揺れる我は浮草

文野 見枝子

帰るたびつい見えてしまう犬小屋にはなは居ないと分かっていても

中内 佐登美

若き日に共に子育てせし仲間自宅の四人のひとりが逝きぬ

島岡 紀美

通勤中歩きスマホに娘は言い来「長生きしてよ、ぐちを聞いてよ」

岡村 香代子

又の名を思い草とつつゆくさ草がうとまるるまで畑に繁る

市川 隆子

酸かしらアルカリかしら土に問ひ自立志向に繁るあじさる

黒岩 やよえ

自らを鷲のようだと鮎漁師網をつかんで流れを見つむ

市川 浩子

香港の民主化守ると身の危険承知でたたかう若者まぶし

北村 さちこ

【各支所連絡先】

四万十支所(旧JA四万十本所)

0880-22-0003

梶原支所(旧JA津野山本所)

0889-65-0111

興津支所

0880-25-0002

東津野支所

0889-62-2211

大野見支所

0889-57-2321

葬祭会館 ルミエール四万十

0880-22-5900

(株)JAメモリアルこうち 津野山出張所

0889-40-1955

事故受付など 高西サービスセンター

0889-40-4141

俳句

仁淀川地区のヒマワリ、来年はぜったい見に行きたいと思っています。また楽しみが出来ました。

(四万十町・70歳・女性)

夏柄のお洒落なマスクはやりけり

(中土佐町・下元 秀美)

体重と入れ歯見せ合う金婚夫婦

(中土佐町・本澤 美和子)

風甘く銀河は近し山の宿

(津野町・宇都宮 由利子)

無花果の花を隠した実の力

(津野町・弘瀬 秀頼)

供物ゼリーにマスク帰省の子

(津野町・村田 三喜子)

おたよりから